

2025 年度
事業報告書

自 2025 年 4 月 1 日
至 2026 年 3 月 31 日

一般財団法人 草間彌生記念芸術財団

東京都新宿区弁天町 109

目次

I. 事業報告	3 ページ
○事業の主旨	
○施設の概要	
1. 展覧会	
○第 15 回展覧会企画	4 ページ
[関連企画]	
○第 16 回展覧会企画	9 ページ
[関連企画]	
2. 教育普及活動	13 ページ
[美術館たんけんワークシート]	
[こどもワークショップ]	
[おやこで美術館]	
[スクールプログラム]	
[KUSAMA LERNING]	
[障がい者対応プログラム トライアル実施]	
3. 作品の収集・保存および調査・研究	20 ページ
4. 著作権の管理	
5. 美術館（建物）の管理・修繕	
6. その他、財団の目的達成のために必要な活動	
II. 運営体制	21 ページ

I. 事業報告

○事業の主旨

草間彌生美術館は前衛芸術家・草間彌生が設立し運営している。草間作品および関係資料の展示を通じて草間芸術の普及振興を図り、芸術全般の発展に寄与することを目的とし諸事業を展開している。

年に2回程度、収蔵作品（収蔵予定作品を含む）による展覧会を開催しており、関連して講演会、こどもワークショップ、ギャラリートークなどの啓発活動を実施した。草間が作品を通じて繰り返し訴えてきた、世界平和と人間愛というメッセージを広く世界へ伝え、多くの方々に現代美術に慣れ親しんでいただく美術館として持続的な運営をめざし活動している。

○施設の概要

2017年10月に開館した当館は、地上5階（展示ギャラリー、ブラウジングスペース、ショップ）、地下2階（収蔵庫）。建築面積129㎡、延床面積727㎡で、階段またはエレベーターで1階から順番に上の階へあがり展示ギャラリースペースへ進み、下りはすべてエレベーターを使用としている。

美術館から徒歩1分の至近距離に事務局を設け、美術館とは密接な連携がとれる環境となっている。

1. 展覧会

今年度の常設企画展は、第15回展を2025年4月～8月、第16回展を2025年10月～2026年3月に開催した。その結果、開館日数は計164日、来館者数68,002名、一日平均415名となった。

美術館開館日は通常、木・金・土・日曜および国民の祝日で、入場は1日6回転（1回75名）、開館時間は11:00から17:30まで。美術館敷地内に入場待機列をつくるスペースなどの余剰が少ないため、混雑緩和と近隣地域への配慮から事前予約制をとり、チケットは美術館の公式ウェブサイトのみで販売し、今年4月より、当日に残数がある場合、入館時間の30分後まで購入可能とした。今年度も来館者の約7割以上は訪日客となった。館内では大きな混雑はなく、概ね順調に運営できた。

展覧会は、当館学芸課が企画し、作品選定、借用依頼、運搬、会場構成、展示、作品リスト・図録の作成などすべてを執り行った。出品作品は絵画、ドローイング、立体作品、インスタレーション、資料など多岐に渡り紹介し、鑑賞を楽しみながら制作の背景や美術史上の意義の理解ができるような展示を心掛けた。これまで通り、作品リスト、図録、公式ウェブサイトは日英バイリンガル表記の対応としている。美術館の広報手段のひとつである公式インスタグラムアカウント（バイリンガル）では、展覧会の様子や

出品作品、教育普及イベントの情報などを随時発信した。さらに、展覧会のアーカイブ映像も制作し、当館ウェブサイト・インスタグラムにて公開した。

また、館内運営は、外部業者へ委託し、館内監視、来館者の受付対応、チケット販売、館内清掃などを行い、美術館の鑑賞環境の向上に協力を得た。

教育普及活動では、例年通り当館スタッフを中心にボランティアスタッフの協力を得て、情報発信、参加型イベントを継続して開催した。

展覧会ごとに図録を制作、美術館のショップおよび公式オンラインストアで販売している。発行は一般財団法人草間彌生記念芸術財団で日英バイリンガル・A4 変型ハードカバーの体裁。

○第 15 回展覧会企画「宇宙からの音響」概要

タイトル 「宇宙からの音響」

会 期 2025 年 4 月 24 日（木）～8 月 31 日（日）

プレスレビュー 2025 年 4 月 23 日（水）14:00～15:30

開催日数 81 日間

入場時間 ①11:00 ②12:00 ③13:00 ④14:00 ⑤15:00 ⑥16:00

11:00 から各 90 分枠の 6 回転制、2 か月前の 1 日から美術館ウェブサイトのみでチケットを販売（4 月・5 月分のチケットのみ 4 月 1 日より販売）。事前予約・定員 75 名。当日の入館時間の 30 分後までチケット購入が可能。

観覧料 一般 1,100 円 小中学生 600 円（税込）

※未就学児は無料。団体割引の設定はなし。

入場者数 36,297 名

1 日平均 448 名

図録 A4変型56ページ・ハードカバー・日英バイリンガル

チラシ A4

出品点数 55 点

企画趣旨 幼い頃から幻覚や幻聴に悩まされてきた草間。精神疾患は、その創作活動に多大な影響を及ぼしている。1950 年代、草間は自らのオブセッションに駆り立てられるように膨大な数のドローイングを描き、作家として躍進する契機を得た。57 年の渡米後は、水玉や網目などの無限に反復するパターンですべての存在を覆いつくし、自らもその世界へと埋没していく「自己消滅」の儀式ともいうべき作品群に取り組むが、それは心理的な病理からの救済への願いであると同時に、ハプニングなどを通じて不条理な抑圧から社会を解放しようとする意図につながるものでもあった。しかし、

心身の不調によって帰国した後の 70 年代後半から 80 年代にかけては、精神科病院の病室でコラージュや色紙といった小作品を数多く制作するようになる。その後、複数の画面にわたる絵画や巨大なバルーンなど、彼女の作品はエンヴァイラメント・サイズへと拡大していく。草間のいう「自己消滅」とはもはやアーティスト個人の内面の問題ではなく、荘厳な「宇宙からの音響」のさなかに身を置くような感覚へと鑑賞者を誘わずにはおかないといってもよい。本展では、草間の芸術の根源ともいえる病に着目し、初期から現在に至るまでの多様な作品群および関連資料を展示した。

出品リスト

No.	作品名	作家名	制作年	材質・技法	寸法（縦×横）	所蔵 （記載 の無い ものは 草間彌 生美術 館所蔵 予定）
1	ヤヨイちゃん	草間彌生	2013	ミクストメディア	400×100× 260 cm	
2	トコトン	草間彌生	2013	ミクストメディア	240 × 320 × 130 cm	
3	残骸の集積	草間彌生	1950	油彩・紙	45.3×52.3 cm	
4	森の中	草間彌生	1951	油彩・キャンバス	32×41.1 cm	
5	芽	草間彌生	1951	油彩・麻布（種袋）	91.5×73.4 cm	
6	陽は沈む	草間彌生	1951	油彩・キャンバス	53.4×45.6 cm	
7	無題	草間彌生	c.1950	パステル、インク・紙	27×18.7 cm	
8	顔	草間彌生	1952	パステル、ガッシュ、 その他・紙	27.8×20.5 cm	
9	花	草間彌生	1952	ガッシュ、その他・紙	28×20.5 cm	
10	地の底のもえる火	草間彌生	1953	ガッシュ、インク・紙	29×22 cm	
11	無題	草間彌生	1953	パステル、インク・紙	29.5×22.5 cm	
12	花	草間彌生	1952	パステル、ガッシュ・紙	31.5×28.3 cm	
13	火山脈	草間彌生	1953	パステル、ガッシュ、 インク・紙	29.5×22.4 cm	
14	A FACE (No2)	草間彌生	1953	ガッシュ・紙	27.4×20.3 cm	

15	無題	草間彌生	1953	パステル、ガッシュ、 インク・紙	29.7×22.2 cm	松本市 美術館
16	Self Portrait	草間彌生	1952	パステル、ガッシュ・紙	28×20.4 cm	
17	無題	草間彌生	1952	パステル、ガッシュ、 インク・紙	26.8×18.8 cm	
18	FLEEING EYE	草間彌生	1953	ガッシュ、インク・紙	22.5×29.7 cm	
19	CATHEDRAL No2	草間彌生	1953- c.1964	パステル、ガッシュ、 その他・紙	29×25.8 cm	
20	The Woman	草間彌生	1953- c.1963	パステル、ガッシュ・紙	40.5×31.5 cm	
21	FLYING PEOPLE	草間彌生	1953	パステル、インク・紙	27.2×20.2 cm	
22	Leaves	草間彌生	1954	ガッシュ、インク・紙	20.1×27.3 cm	
23	落花のアキュミレーション	草間彌生	1955	油彩・キャンバス	45.4×37.9 cm	
24	Pacific Ocean	草間彌生	1959	パステル、ガッシュ、 インク・紙	60.3×72.8 cm	
25	14丁目のハブニング	草間彌生	1966	カラースライドによる パフォーマンスの記録 写真：細江英公	29 スライド	
26	夜	草間彌生	1983	詰め物入り縫製布、木 箱、塗料	180×60.8× 39.5 cm	
27	ねむれぬ夜の巣	草間彌生	1975	コラージュ（印刷物、 布）、パステル、エナメ ル、 インク・紙	39.5×54.5 cm	
28	眠られぬ夜	草間彌生	1975	コラージュ（印刷物、 布）、パステル、エナメ ル、 インク・紙	54.3×39.6 cm	
29	深海の底	草間彌生	1975	コラージュ（印刷物、 布）、パステル、エナメ ル、 マーカーペン・紙	39.5×54.5 cm	
30	穴の中で春をまつ	草間彌生	1975	コラージュ（印刷物、 布）、パステル、エナメ ル、 インク・紙	39.7×54.7 cm	
31	氷河の裂け目をゆく	草間彌生	1975	コラージュ（印刷物、 布）、パステル、エナメ ル、 マーカーペン、インク・ 紙	39.5×54.6 cm	
32	ピーマン	草間彌生	1979	水性ペン・色紙	24.2×27.2 cm	
33	チューリップ	草間彌生	1978	水性ペン・色紙	24.2×27.2 cm	

34	芽	草間彌生	1979	水性ペン・色紙	24.2×27.2 cm	
35	信濃路	草間彌生	1979	水性ペン、インク・色紙	24.2×27.2 cm	
36	洋梨	草間彌生	1979	水性ペン・色紙	24.2×27.3 cm	
37	蝶	草間彌生	1980	水性ペン・色紙	24.2×27.2 cm	
38	ピンク・ドッツ―星の墓 場で眠りたい	草間彌生	1993- 1994	アクリル・キャンバス	388× 1042.4cm	
39	星の精	草間彌生	2013	アクリル・キャンバス	194×194 cm	
40	宇宙へ見物へ行った女たち	草間彌生	2017	アクリル・キャンバス	194×194 cm	
41	星のささやき	草間彌生	2011	アクリル・キャンバス	162×162 cm	
42	天国の星くずに囲まれた私の 愛の住処	草間彌生	2021	アクリル・キャンバス	130.3 × 130.3 cm	
43	宇宙のすばらしさはこれ 以上はないと思った私の 新しい芸術への挑戦	草間彌生	2019	アクリル・キャンバス	100×100 cm	
44	毎日愛について祈っている わが永遠の魂 詩集 かくなるうれしい！ 億万の愛の希望 愛している！ 心の限り愛してゆく 我々の芸術への無限の愛	草間彌生	2021	アクリル・キャンバス	72.7×91 cm	
45	毎日愛について祈っている	草間彌生	2021	アクリル・キャンバス	72.7×91 cm	
46	毎日愛について祈っている	草間彌生	2022	アクリル、マーカーペン・キャンバス	45.5×53 cm	
47	毎日愛について祈っている	草間彌生	2022	アクリル、マーカーペン・キャンバス	53×45.5 cm	
48	毎日愛について祈っている	草間彌生	2023	アクリル、マーカーペン・キャンバス	72.7×60.6 cm	
49	毎日愛について祈っている	草間彌生	2023	アクリル、マーカーペン・キャンバス	60.6×60.6 cm	
50	毎日愛について祈っている	草間彌生	2023	アクリル、マーカーペン・キャンバス	45.5×53 cm	
51	愛を祈る	草間彌生	2024	アクリル・キャンバス	53×45.5 cm	
52	毎日愛について祈っている	草間彌生	2025	アクリル、マーカーペン・キャンバス	60.6×60.6 cm	

53	雲	草間彌生	2023	ミクストメディア	サイズ可変	
54	オブリタレーション・ルーム	草間彌生	2002- 現在	家具、白色ペイント、 水玉ステッカー	サイズ可変	下に 記載
Collaboration between Yayoi Kusama and Queensland Art Gallery. Commissioned Queensland Art Gallery. Gift of the artist through the Queensland Art Gallery Foundation 2012. Collection: QAGOMA						
55	ナルシスの庭	草間彌生	1966/ 2025 年	ステンレス	各Φ18 cm	

[関連企画]

講演会の開催

日時：2025年8月24日（日）15:00～16:30

講師：峯村敏明（美術評論家）

参加者数：37名

場所：社会福祉協会シャロームみなみ風 地域交流スペース

ギャラリートークの実施

当館学芸員によるギャラリートークを日英それぞれで2回ずつ、計4回実施。

日時：2025年7月18日（金）14:15～14:30（日本語）

7月25日（金）13:15～13:30（英語）

8月15日（金）14:30～（英語）

8月22日（金）14:30～（日本語）

アーカイブ映像の制作

展覧会の見どころをまとめた約5分半の記録映像を制作。美術館のウェブサイトおよびインスタグラムアカウントを通して無料公開している。映像の編集や音楽を工夫し、アーカイブであると同時に、広報ツールとしても機能することを目指した。

公開日：2025年9月16日（火）

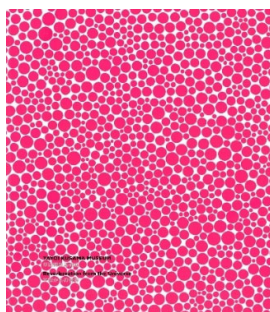
当館学芸スタッフによるオンライン上でのギャラリートークを1回、当館公式インスタグラムアカウント（@yayoikusamamuseum）のコンテンツとして配信。

展覧会図録制作

発行：2025年4月/一般財団法人草間彌生記念芸術財団

体裁：規格外A4変型ハードカバー・56P・日英バイリンガル

価格：3,080円（税込）



○16 回展覧会企画「草間彌生 闘う女／絵を描く少女」概要

タイトル 「草間彌生 闘う女／絵を描く少女」

会 期 2025年10月16日（木）～2026年3月8日（日）

プレスプレビュー 2025年10月15日（水）14:30～15:30

開催日数 83日間

入場時間 ①11:00 ②12:00 ③13:00 ④14:00 ⑤15:00 ⑥16:00

11:00 から各 90 分枠の 6 回転制、2 か月前の 1 日から美術館ウェブサイトの
のみでチケットを販売（10 月分のチケットのみ 9 月 1 日より販売）。

事前予約・定員 75 名。

当日の入館時間の 30 分後までチケット購入が可能。

観覧料 一般 1,100 円 小中学生 600 円（税込）

※未就学児は無料。団体割引・障がい者割引の設定はなし。

入場者数 31,705 名

1 日平均 381 名

図録 A4 変型 56 ページ・ハードカバー・日英バイリンガル

チラシ A4

出品点数 39 点

企画趣旨 草間彌生の創作は、長い歩みの中でさまざまな変遷を遂げてきた。本展では作品に表れる彼女のアイデンティティに、「闘う女性」と「無邪気な少女」という 2 つの顔を見だし、その表出と変容を紹介する。1957 年に渡米した草間は、白人男性が優位であった当時の美術界において、東洋人女性というマイノリティであるがゆえの果敢な活動を展開した。自らのアイデンティティを強く意識したに違いないニューヨーク時代には、一女性として自身や社会と対峙した意欲的な作品が数多く生み出された。一方、帰国後は、60 年代後半には距離を置いていた絵画制作に再び精力的に取り組む。近作においては鮮やかな色彩やユーモラスな

人物描写など、少女のように無邪気な表現が顕著に見られる。活動初期のドローイングをはじめ、過去のトラウマによる性への恐怖を克服するための集合彫刻や、既存の社会規範や性道徳を挑発するようなヌード・パフォーマンスやファッションの記録資料など、渡米期に生み出された挑戦的な表現を展示。また近作からは、心のうちを描き出すかのように精力的に制作された絵画シリーズとともに、草間の空想世界を実体化したような少女や花がモチーフの立体作品、世界初公開の小型ミラールームを紹介した。

出品リスト

No.	作品名	作家名	制作年	材質・技法	寸法（縦×横）	所蔵 （記載の無いものは草間彌生美術館所蔵予定）
1	14丁目のハブニング	草間彌生	1966	カラースライドによるパフォーマンスの記録	29 スライド	
2	ウォーキング・ピース	草間彌生	c.1966	カラースライドによるパフォーマンスの記録	24 スライド	
3	A Flower #4	草間彌生	1952	パステル、ガッシュ・紙	26.4 × 19.5 cm	
4	花頭	草間彌生	1953	パステル、ガッシュ・紙	32 × 29.7 cm	
5	花	草間彌生	1953-63	パステル、ガッシュ・紙	34 × 28.5 cm	
6	FLOWER X.P	草間彌生	1953	パステル、ガッシュ・紙	25.3 × 21.2 cm	
7	夜	草間彌生	1983	詰め物入り縫製布、木、塗料	180 × 60.8 × 39.5 cm	
8	SEX OBSESSION	草間彌生	2003	詰め物入り縫製布、額、エナメル塗料	63 × 55.5 × 17 cm	
9	幻影の彼方（パーティー）	草間彌生	1997	詰め物入り縫製布、家庭用品、木、塗料	184 × 183 × 20 cm	
10	希死	草間彌生	1975-76	詰め物入り縫製布、キッチンツール、金属トレイ、エナメル塗料	10 点組、サイズ可変	
11	無題	草間彌生	1983	詰め物入り縫製布、靴、塗料、ラメ	27.5 × 8.5 × 25.5cm, 29.5 × 9.5 × 25 cm	

12	心	草間彌生	2003	ウレタンフォーム、 ウレタン塗料、木、 布、造花	77 × 47 × 13.7 cm	
13	開演	草間彌生	1994	コラージュ、アクリ ル塗料、紙、詰め物 入り縫製布、網、 木、布	63 × 45 × 10 cm	
14	海の夢	草間彌生	1994	コラージュ、アクリ ル塗料、網、木、布	63 × 45 × 10 cm	
15	蝶 (T.W.A.N.)	草間彌生	1999	詰め物入り縫製布、 ナイロン繊維、箱、 模造蝶、塗料	34 × 33 × 31 cm	
16	私と蝶	草間彌生	2001	グラファイト・紙	32.5 × 25.5 cm	
17	無題 (草間ファッションプロ ジェクトのために制作された ドレス、クリエイティブユニ ット graf とのコラボレーショ ン)	草間彌生	2002	布		
18	ヤヨイちゃん	草間彌生	2013	ミクストメディア	350 × 140 × 140 cm	
19	孤独の中を美しく生き抜いて きた私の姿をみて	草間彌生	2020	アクリル・キャンバ ス	100 × 100 cm	
20	girls (AAA)	草間彌生	2004	アクリル、マーカー ペン・キャンバス	53 × 65.2 cm	
21	愛はとこしえ	草間彌生	2004	アクリル、マーカー ペン・キャンバス	38 × 45.5 cm	
22	SELF-PORTRAIT (KIBTO)	草間彌生	2012	アクリル・キャンバ ス	162 × 130.3 cm	
23	花咲ける ニューヨーク (OPRT)	草間彌生	2005	アクリル・キャンバ ス	162 × 130.3 cm	
24	闇の中で生きている喜びを見 いだしたとき	草間彌生	2020	アクリル・キャンバ ス	100 × 100 cm	
25	生きている日々	草間彌生	2004	アクリル、マーカー ペン・キャンバス	60.6 × 72.7 cm	
26	自画像	草間彌生	2004	アクリル、マーカー ペン・キャンバス	53 × 45.5 cm	
27	SELF-PORTRAIT (PWAL)	草間彌生	2012	アクリル・キャンバ ス	162 × 130.3 cm	
28	生命のよろこび	草間彌生	2004	アクリル、マーカー ペン・キャンバス	53 × 65.2 cm	
29	Girls	草間彌生	2004	アクリル、マーカー ペン・キャンバス	53 × 65.2 cm	
30	傷ついた思い出に涙をなが す、いま	草間彌生	2017	アクリル・キャンバ ス	194 × 194 cm	
31	私の心を見つめていたい	草間彌生	2013	アクリル・キャンバ ス	194 × 194 cm	

32	青春を迎えた女たちの園	草間彌生	2018	アクリル・キャンバス	194 × 194 cm	
33	私の愛の億万のきらめきをあなたにあげたい	草間彌生	2017	アクリル・キャンバス	194 × 194 cm	
34	少女たちの夢	草間彌生	2016	アクリル・キャンバス	194 × 194 cm	
35	我が幼なかり日々の全て	草間彌生	2016	アクリル・キャンバス	194 × 194 cm	
36	旅路の果てで愛を語る	草間彌生	2017	アクリル・キャンバス	194 × 194 cm	
37	わたしは晩年の人生をいま迎えている	草間彌生	2017	アクリル・キャンバス	194 × 194 cm	
38	決められた幻の水玉は 天国へ与えられた 私への最大の贈り物でした	草間彌生	2021	ステンレス、アルミ、鏡、ガラス、アクリル、F.R.P.、ステッカー、LED、スチロール	210 × 123.3 × 129.6 cm	
39	明日咲く花	草間彌生	2020	F.R.P.、ウレタン塗料、鉄	290 × 205 × 185 cm	

[関連企画]

講演会の開催

「草間彌生の闘いと創造 ソフト・スカルプチュアまで」

日時：2026年2月21日（土）14:30～16:00

講師：中嶋 泉（大阪大学大学院人文学研究科 准教授）

参加者数：29名

場所：新宿区立漱石山房記念館 講座室

アーカイブ映像の制作

展覧会の見どころをまとめた約5分の記録映像を制作。美術館のウェブサイトおよびインスタグラムアカウントを通して無料公開している。映像の編集や音楽を工夫し、アーカイブであると同時に、広報ツールとしても機能することを目指した。

公開日：2026年3月15日（日）

展覧会図録の制作

発行：2025年10月/一般財団法人草間彌生記念芸術財団

体裁：規格外A4変型ハードカバー・56P・日英バイリンガル

価格：2,860円（税込）



2. 教育普及活動

当館では現代美術の普及と理解の促進を目的に、幅広い年齢層に向けた教育普及プログラムを提供している。展示作品への関心を深め、鑑賞後の印象や感想を家族や知人と共有する機会を設け、草間作品を通して現代美術をより身近に体験してもらうことを目指したプログラムの推進に積極的に取り組んできた。

未就学児のいる家族を対象にしたプログラム「おやこで美術館」、小学生向けのワークショップは、対面とオンラインの両形式で継続開催している。「おやこで美術館」と対面型ワークショップは回数を増やして開催した。国内外の小学校を対象に教育ツールを配布するプログラム「KUSAMA LEARNING」は、夏季期間に限定して申し込みを受け付け、ツールを配布した。

これらの教育普及活動の運営は、学生を中心とした約15名のボランティアスタッフの協力を得て実施している。「おやこで美術館」とワークショップに加え、15回展では障がい者向けプログラムのトライアルにも参加し、鑑賞のサポートを行った。

[美術館たんけんワークシート]

来館する子ども向けの鑑賞ツールとして、作品の細部など様々な要素に注目し、鑑賞しながら物語を想像できるワークシートを展覧会ごとに作成した。作品への理解を深め、楽しい時間を過ごすことを目的に、希望する来館者に配布した。前回に引き続き、美術館受付にサンプルを用意し、利便性の向上に努めた。16回展では、未就学児～低学年向けと中学年以上向けの2種類を作成した。

対象：未就学児～大人

配布数：第15回展 日本語186部／英語54部

第16回展	日本語	未就学児～低学年向け	90部	
		中学年以上向け	64部	計154部

	英語	未就学児～低学年向け	59部	
		中学年以上向け	52部	計111部

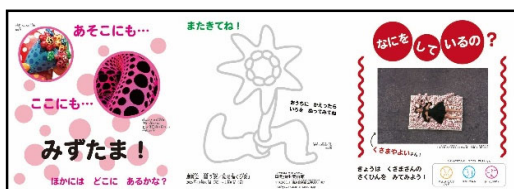
- ・15回展（日本語版） ※二つ折り



- ・16回展（日本語版） ※三つ折り

未就学児～低学年向け

【表】



【裏】

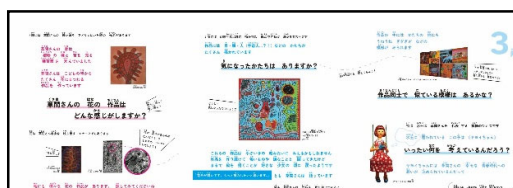


中学年以上向け

【表】



【裏】



【こどもワークショップ】

展覧会の作品の一部を鑑賞し、その作品に関連したテーマで創作を行う約1時間半のプログラムを、対面2回、オンライン1回の計3回実施した。対面では、初めて各階を自由に移動する時間を設け、多様な作品の中から気になった作品をじっくり鑑賞しながらスケッチに取り組む姿が見られた。オンラインでは初の試みとして、創作に使用する材料の一部を事前に参加者へ郵送した。また、作品の一部を拡大した写真を用意し、オンラインでの鑑賞体験の向上を図った。さらに、対面プログラムで配布しているワークシート、こどもガイドも併せて送付した。

対象：小学生とその家族

・15回展

<オンライン> プログラム名：「宇宙の果ての果てまで…？表現にちょうせんしよう」

はじめに事前に配布した作品カードをよく鑑賞し、どのような表現が使われているのかを話し合った。その後、絶えず作品を作り続ける気持ちを想像しながら、新しい表現に挑戦して作品を完成させた。

実施日	時間	参加人数
2025年 8月22日（金）	90分	小学校2～5年生（2名）



鑑賞作品（例）
1950年代ドローイング群



創作した作品

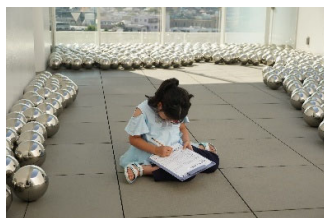
<対面> プログラム名：「スケッチとことば？あなたのメッセージを伝えよう！」

展覧会全体を鑑賞し、感じたことや気に入ったところについてメモを取った。その後スケッチを行い、着彩や思い思いの絵を描き足してオリジナルの要素を加え、作品を完成させた。

実施日	時間	参加人数
2025年 8月20日（水）		
10:30～12:00	90分	小学校1、4年生（6名）
13:30～15:00	90分	小学校1、3年生（5名）
計 2回		11名



鑑賞作品（例）
《ヤヨイちゃん》《トコトン》（2013年）



スケッチに取り組む様子

・16回展

<対面> プログラム名：「ぼく/わたしってどんな人？自画像を描いてみよう！」

3階ギャラリーにて自画像を含む近年の作品群を鑑賞し、その後、自画像の制作を行った。まず顔のモチーフに注目して鑑賞し、4階で自画像の制作に取り組んだ。再びギャラリーに移動し、顔の周りに描かれた模様や他のモチーフに着眼して鑑賞を行った。最後に背景紙を選び、顔の周りに絵を描き加えて作品を完成させた。鑑賞と創作を交互に行うことで、鑑賞で感じたことや気付いたことが、より直接的に創作へと結びついていた様子だった。

実施日	時間	参加人数
2026年3月8日（日）	60分	小学校1、4、6年生（3名）



鑑賞作品（例）

《SELF-PORTRAIT (KIBTO)》（2012年）



創作する様子

[おやこで美術館]

未就学の子どもがいる家族を対象にした鑑賞プログラムを、計8回実施した。参加者からは「他の来館者の目を気にせず、美術館に子どもを連れて来られる」と好評を得ており、少人数ながら継続的に開催した。ボランティアスタッフとは事前にオンラインで打ち合わせを行い、当日も開催前に流れを確認した。

対象：未就学児とその家族

・15回展

壁一面に絵画が展示された3階ギャラリーで、ツールを用いながら作品の豊かな色彩に注目して鑑賞した。その後、1階で作品を参考に、自分の配色でぬりえを行った。

実施日	時間	参加人数
2025年5月6日（火祝）	60分	1～5歳（4名）保護者（6名）
6月22日（火）	60分	3～5歳（6名）保護者（6名）
6月29日（日）	60分	3～8歳（3名）保護者（4名）
7月20日（日）	60分	1、6歳（2名）保護者（1名）
計 4回		子ども 15名 保護者 17名



使用したツール



ぬりえに取り組む様子

・16回展

3階ギャラリーでは展示されている作品に度々登場する顔のモチーフを取り上げ、指定された顔を見つけるゲームを通して表情と色のバリエーションに注目した鑑賞を行った。5階では野外彫刻を鑑賞し、作品のぬりえに取り組んだ。

実施日	時間	参加人数
2025年 11月15日 (土)	60分	3、6歳 (4名) 保護者 (4名)
11月22日 (土)	60分	3、5歳 (3名) 保護者 (4名)
12月13日 (土)	60分	1～6歳 (7名) 保護者 (7名)
2026年 1月24日 (土)	60分	3～8歳 (6名) 保護者 (4名)
計 4回		子ども 20名 保護者 19名



ツールを使用した鑑賞の様子



ぬりえに取り組む様子

[スクールプログラム]

時期：2025年5月7日(水)

15:30-17:00

学校名：早稲田大学

参加者：学部生・院生15名+教員1名



プログラムの様子

時期：2025年5月28日（水）

10:00-11:00

学校名：新宿区立戸塚第三小学校

参加者：小学5年生52名+教員4名



プログラムの様子

[KUSAMA LEARNING 小学生に現代アートを。「草間さんの作品を見てみよう!」]

2023年度から開始した取り組みで、展覧会風景のダイジェスト動画と、小学生向けのパンフレット「こどもガイド」(2種)をセットにし、美術館を来訪する機会がなくても、小学校の授業で現代美術を体験できる機会を提供するプログラム。今年度は国内外の小学校からの申し込みがあり、セットと教員向けのガイドを配布した。また、今後の改善に生かすため、利用後のアンケートを集約した。

対象：国内外の小学校、インターナショナルスクールなど

申込期間	参加小学校/人数
2025年6月8日（日）～8月31日（日）	8校/475人



ダイジェスト動画より



こどもガイド vol.1 vol.2（日本語版）

[障がい者対応プログラム トライアル実施]

障がい者対応プログラム開発の一環として、鑑賞プログラムのトライアルを3回実施した。15回展では、区内在住の身体障がい者を対象にレクリエーション活動や就労支援を行っている近隣施設「新宿区立障害者福祉センター」の協力を得た。16回展では、ダウン症の子どもを対象に児童発達支援及び放課後等デイサービスを行う近隣施設「バンブーワオ 早稲田校」が昨年度に引き続き参加し、今年度は姉妹校「バンブーワオ/ビーイングバンブー（成人向けデイサービス）高円寺校」の希望もあり、実施した。

・新宿区立障害者福祉センター

実施日	時間	参加人数 (車椅子利用者) /職員
2025年 7月1日 (日)		
10:00～11:00	60分	4名 (4名) /6名
11:00～12:00	60分	5名 (4名) /6名
13:00～14:00	60分	4名 (2名) /4名
2025年 7月2日 (水)		
13:00～14:00	60分	6名 (6名) /4名
計 4回		19名 (16名) /6名

・バンブーワオ 早稲田校

実施日	時間	参加人数 (利用家族) /職員
2026年 2月17日 (日)		
10:30～11:30	60分	乳児クラス 4組/4名
15:00～16:00	60分	幼児クラス 4組/4名
計 2回		8組/8名

・バンブーワオ/ビーイングバンブー 高円寺校

実施日	時間	参加人数	/職員
2026年 2月17日 (日)			
10:30～11:30	60分	成人クラス 7名/6名	
15:00～16:00	60分	中高生クラス 6名/4名	
計 2回		13名/10名	

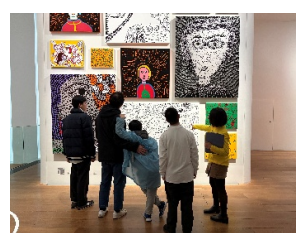
※職員は全て延べ人数



新宿区立障害者福祉センター



バンブーワオ早稲田校
幼児クラス



バンブーワオ高円寺校
中高生クラス

トライアルの様子

3. 作品の収集・保存および調査・研究

作品や資料の収集

- ・ 作品の収集
- ・ 関連資料の収集
- ・ 関連書籍等の収集

作品や資料の保存

- ・ 作品や資料の保存管理
- ・ 作品や資料のデジタルアーカイブ（計画段階、草間スタジオで先行作業を実施）

作品や資料の調査・研究

- ・ 作品・展示解説を掲載した図録の制作・発行と、関連機関への寄贈
- ・ 作品に関する評論等の調査・研究

4. 著作権の管理

版画作品の贋作の増加を受け、12月に公式ウェブサイトおよびInstagramにて注意喚起の情報を発信。

5. 美術館（建物）の管理・修繕

館内の空調設備や温湿度管理の改修に向けて、設計事務所・施工会社と協議を行い、館内温湿度と外気流入調査の実施、改修計画に関する基本構想を策定。

[防災訓練の実施]

年2回 [2025年6月27日（金）／12月18日（木）]

6. その他、財団の目的達成のために必要な活動

[全国美術館会議の研修へ参加・ネットワーク形成]

2020年入会后、美術館同志の連携やネットワーク形成を通じ、情報交換や研修参加による知見の共有をはかり、美術館活動に反映している。2025年11月1日より、賛助会員の無料入館受入を開始した。

[東京都の博物館登録の再申請]

東京都教育委員会へ博物館登録は2022年3月に完了し、引き続き登録博物館としてのガイドラインに則り運営した。東京都から博物館登録に関する規則改正に伴う再申請を行い、2025年9月5日付で登録が完了した。

[現在寄託されている作品（2点）の受贈手続き]

既に財団へ寄託されているドローイング作品2点について40条特例申請と寄付の受贈の手続きを顧問弁護士と相談の上で進めた。

II. 運営体制

1. 役員

令和8年3月現在

代表理事	草間 弥生	
代表理事	建畠 哲	
常務理事	南 雄介	
理事	大森 京太	
	草間 祐輔	
	島 敦彦	
	中森 康文	
	林 知一	8名
評議員	伊東 正伸	
	塩田 純一	
	澁田見 彰	
	高橋 司	
	平野 到	
	前山 裕司	
	松本 透	
	鷺田 めるろ	8名
監事	加登屋 健治	
	佐々木 貴司	2名

2. 組織図

令和8年3月現在

